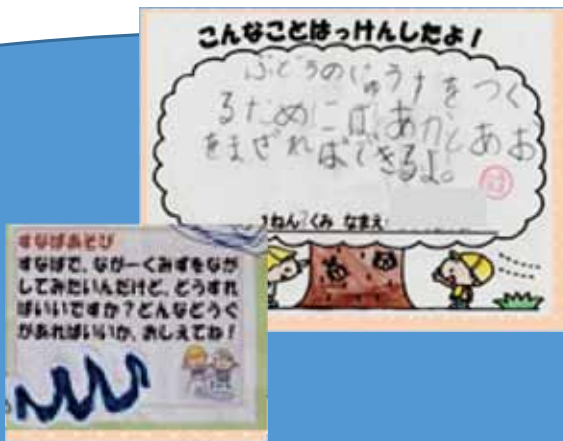


育ち合い、学び合い つなげよう未来へ

幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業報告書



平成29年3月31日、新しい小・中学校学習指導要領が告示されました。この学習指導要領においては、資質・能力の3つの柱である「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」が偏りなく実現されることが求められています。

同時に改訂された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針においても、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることが示されました。

これらのことは、保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園と小・中学校まで縦のつながりで見通した教育が求められていることを示しています。

本県では、平成28年度から、3年間で7つの地域をモデル地域に指定し、「幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業」を実施してきました。

モデル地域では、園・所や小学校だけでなく、市町村や教育委員会の担当者が一堂に会して、幼児期と児童期の子どもの姿を捉え、子どもを中心に据えた協議を重ねました。

その中で、遊びや生活を通して総合的に学ぶ幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なるものの、子どものもつ学ぶ意欲は共通していることを実感するとともに、こうした学ぶ意欲を効果的に学習へとつなげていくのは、教職員の働きかけであることを改めて確認しました。

この幼小接続の取組が更に広がり、アプローチ及びスタートカリキュラムの作成や進め方の工夫につながることを願っています。

目次

I	幼稚園教育要領等・学習指導要領の改訂に伴う、幼小接続に関して今求められる方向性とは	1
	1 小学校学習指導要領における幼小接続の在り方	2
	2 幼稚園教育要領等における幼小接続の在り方	2
	3 幼児教育と小学校教育をつなぐために	3
II	幼小接続期における幼児期の不安及び期待を小学校での満足感につなげるために	4
	1 小学校1年生が捉える幼小の違いと小学校生活への適応	5
	2 平成30年度幼児期の教育と小学校教育接続期実態調査結果より	6
III	スタートカリキュラムをデザインする ～「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」から～	8
	1 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を踏まえたスタートカリキュラム	9
	2 スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方	10
	3 スタートカリキュラムをデザインする	11
	・スタートカリキュラムをデザインする手順	11
	・単元配列表の作成	12
	・スタートカリキュラムの週案（例）	13
IV	幼児期の教育と小学校教育の接続の取組	14
	1 幼児期の教育と小学校教育の接続を見通した実践のポイント	15
	2 取組例	
	（1）交流から学びの接続へ	16
	（2）教員の研修 知るからつくるへ	19
	（3）指導の工夫からカリキュラムへ	22
	（4）保護者への発信から連携へ	25

I 幼稚園教育要領等・学習指導要領の改訂に伴う、 幼小接続に関して今求められる方向性とは

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針が平成30年度から施行されました。また、小学校学習指導要領は2020年度から施行となります。これらを踏まえ、これからの幼小接続の取組を見直すことが必要です。

小学校学習指導要領における幼小接続の在り方

- Point** 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫する
- Point** 児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする
- Point** 幼児期に遊びを通して育まれてきたことを各教科等での学習につなげる

これも大切！

幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施する。



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

これも大切！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通し、5歳児だけではなく、3歳児、4歳児の時期から、発達していく方向を意識して指導を積み重ねる。



幼稚園教育要領等における幼小接続の在り方

- Point** 皆と一緒に教職員の話の聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねる
- Point** 協同して遊ぶ姿から、協力して目標を目指す姿へとつなげる
- Point** 幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら小学校教育へつなぐ

1 小学校学習指導要領における幼小接続の在り方

平成29年3月に改訂された小学校学習指導要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と示されており、学校段階等間の接続を図ることが一層求められている。また、「特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」と示されている。

円滑な接続を進めるためには、小学校において、「幼児期における自発的な活動としての遊び」を理解することが求められる。そのためには、幼児期の子どもの姿や幼稚園等で行う教育の様子やその進め方を知り、「遊び」の中でどのような姿が育っているのかを、就学前教育施設の教職員と共有することが重要となる。就学前教育施設の教職員との意見交換や合同の研修の機会などを通して共有することが考えられる。

小学校学習指導要領には、さらに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と示されており、幼児期に遊びを通して育まれてきたことを各教科等での学習へとつなげていくことが求められている。

2 幼稚園教育要領等における幼小接続の在り方

小学校学習指導要領と同じく、平成29年3月に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針が改訂されたが、小学校学習指導要領に先駆け、すでに平成30年度から施行されている。この中に、幼児教育のねらい及び内容に基づく全体活動を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。要領・指針に共通して、幼児期の教育は、環境を通して行うものであり、とりわけ、子どもの自発的な活動としての遊びを通して育っていくものであることや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5歳児だけではなく、3歳児、4歳児の時期から、発達していく方向を意識してそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切であるとされている。

小学校への入学が近づく時期には、皆と一緒に教職員の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねることが大切であり、協同して遊ぶ姿から協力して目標を目指す姿へとつなげるアプローチカリキュラムが重要である。また、幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら小学校教育へ円滑に移行することも重要であり、そのために小学校においてスタートカリキュラムを作成するなどの工夫が必要である。

このように、就学前教育施設と小学校がそれぞれ指導方法を工夫し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続が図られることが大切である。

3 幼児教育と小学校教育をつなぐために

幼児期の遊びの中の学びを読み解く

幼児期の活動の中で、保育者が、今何を大切に育もうとしているのか、そのためにどんな手立てをしているのか、そのことが子どもにとってどのような学びにつながっているのかを具体的に伝え合うことが必要である。

手立て

- 教育の様子を参観する際に解説を添えたり、協議の場に参加したりし、子どもの姿に照らして幼児の学びを伝える。
- 参観以外に、画像や映像、ポートフォリオ等を用いて具体的な学びの場면을共有する。



子どもの育ちや学びのつながりを共有する

環境や学習方法が異なる園・所と小学校において、これまで育まれてきた資質・能力を踏まえ、教育を進めるために、育ちの連続性を共有することが大切である。

手立て

- 合同研修や交流活動を通して、子どもの育ちを共有する。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに具体的な姿の見取りや学びの連続性について共有する。



小学校の教育を参観し、学びを共有する

小学校の教育の中で、幼児期に育まれた資質・能力をどのように発揮しているかを共有する機会とすることが大切である。

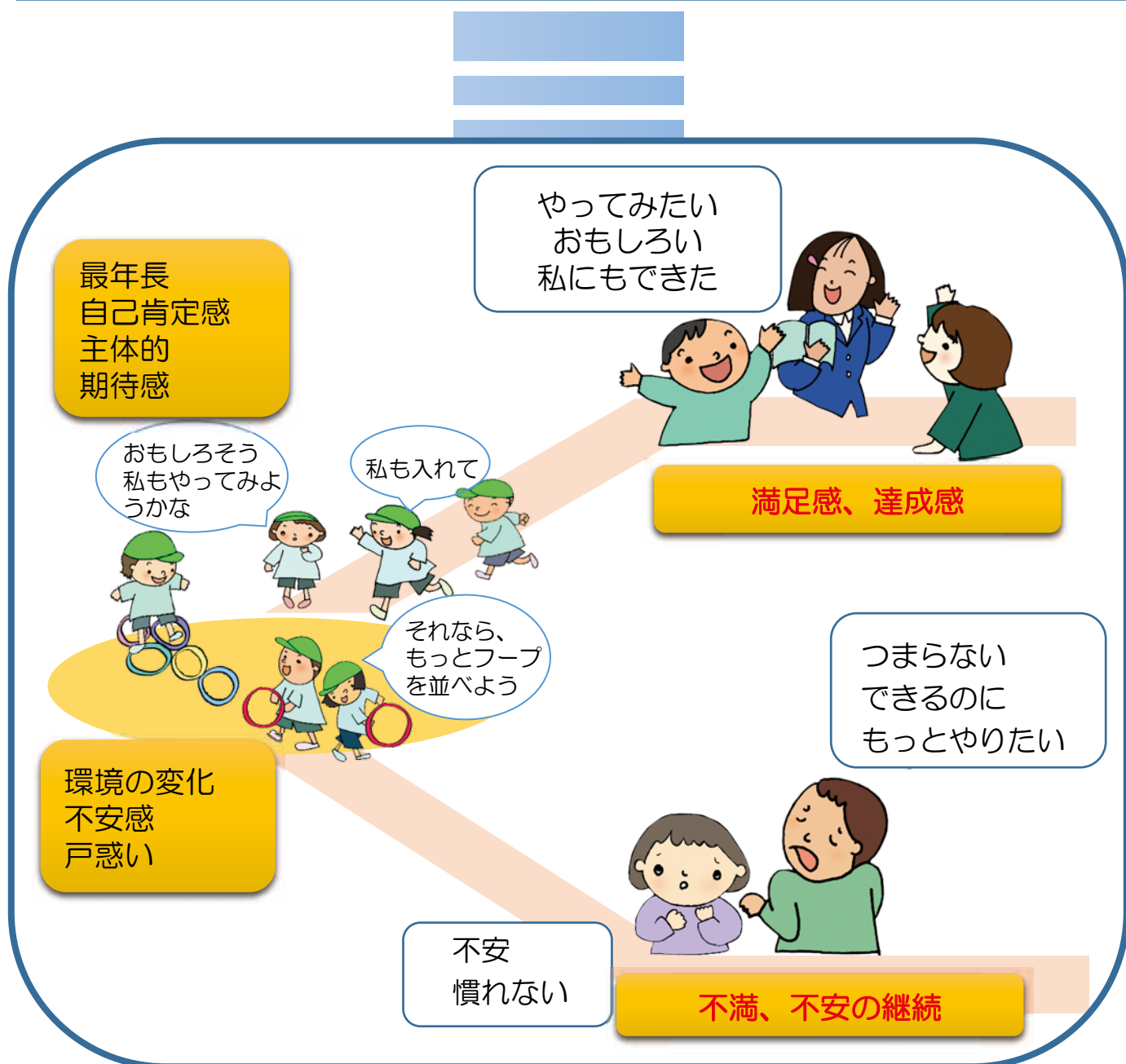
手立て

- 「指示に従っているか」ではなく、「何をどのように学んでいるか」に目を向ける。
- 園・所での育ちが発揮されているかを共有する。
- 小学校全体の子どもの学びを長期的に見通し、幼児期に必要な学びを振り返る。



Ⅱ 幼小接続期における幼児期の不安及び期待を 小学校での満足感につなげるために

小学校は、幼児にとって未知の新しい環境です。その中で安心して自分を発揮し、小学校の生活環境に適応することが、小学校での満足感につながります。幼児期の教育と小学校教育の相違を理解し、資質・能力を十分に発揮できる環境を整えることが大切です。



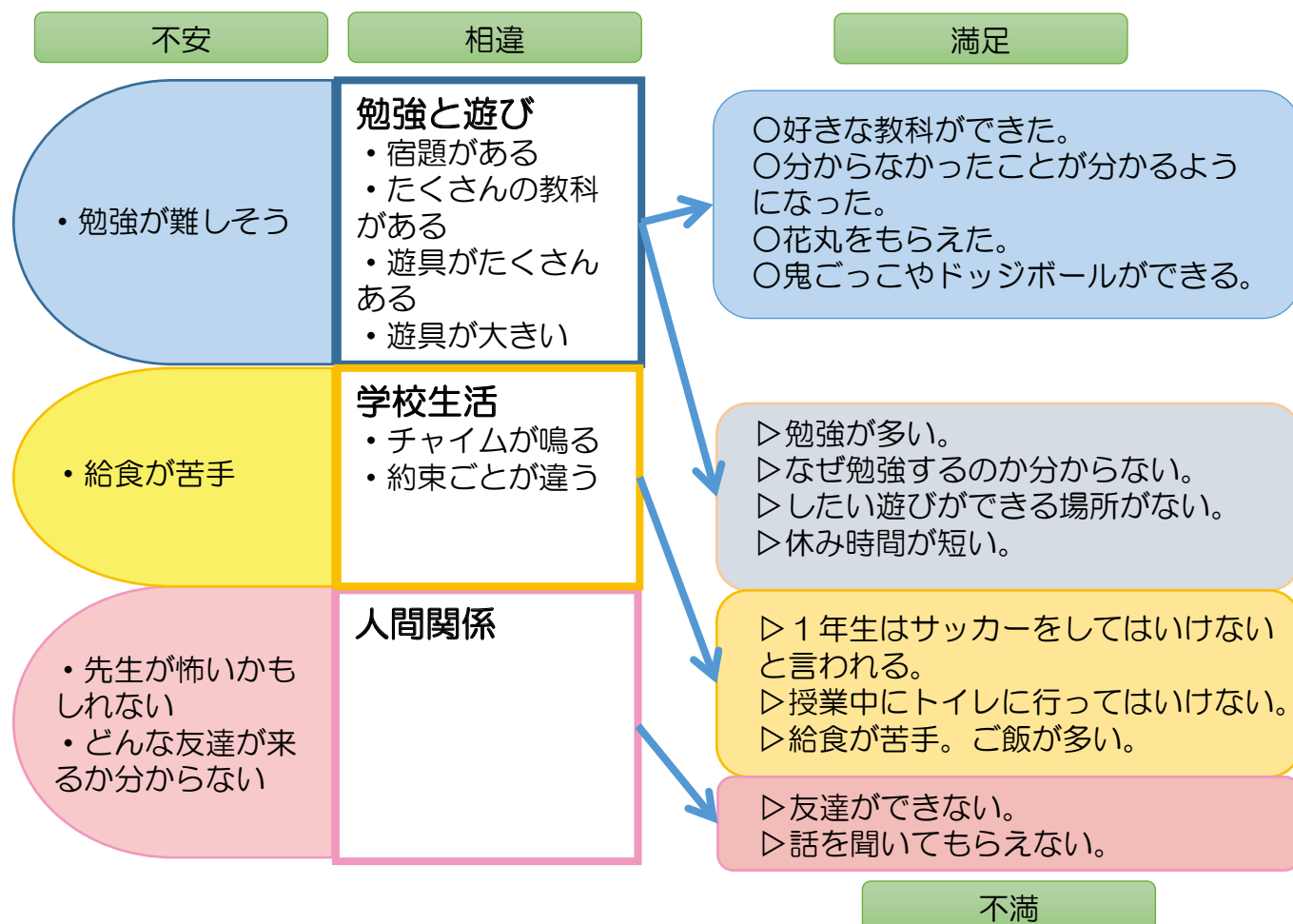
1 小学校1年生が捉える幼小の違いと小学校生活への適応

ここでは、平成30年11月7日に生駒市で開催した、「平成30年度幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業成果報告会」において、兵庫教育大学 鈴木正敏准教授の講義の中で紹介のあった同大学の研究論文「小学校1年生が捉えた幼稚園と小学校の違いと環境への適応過程に関する研究」の内容に、本県の状況を照らし、幼小接続の現状と課題を整理する。

この研究論文では、小学校への適応について、「『適応する』とは、新しい環境の中でも安心して自分を発揮することであり、児童の不安を軽減させることが生活環境への適応に繋がるとしている。つまり、不安が継続していると『安心する』ことが出来ず、適応することは難しいといえよう。」と述べている。また、「盛ら(2008)の研究において、自己コントロールと基本的な生活習慣の習得度が悪いと適応が悪くなるとし、友達との関係を良くすることや学業への自信を付けさせることが学校適応を向上させる要因であると示唆している。」とある。

その中で、小学校1年生が感じている就学前教育施設と小学校の相違や不安、満足として挙げているもののうち、幼児期の不安と児童期の満足や不満に関するものとして、「勉強と遊び」「学校生活」「人間関係」の3つを取り上げる。

子どもは「勉強と遊び」について、小学校では宿題がある、たくさんの教科等があるということを認識している。「学校生活」については、チャイムが鳴る、生活の中での約束ごとが異なる(授業中にトイレに行ってはいけない、ブランコの立ち乗りをしてはいけないなど)ことなどを挙げている。人間関係についてはどのように変化するのは具体的な内容は挙げていない。



就学前にもっていた、期待や不安は、小学校入学後、満足や不満として現れている。

「勉強と遊び」については、「分からないことが分かるようになった」「花丸がもらえた」など、変化や未知の経験の中に、楽しさや満足感を感じている。

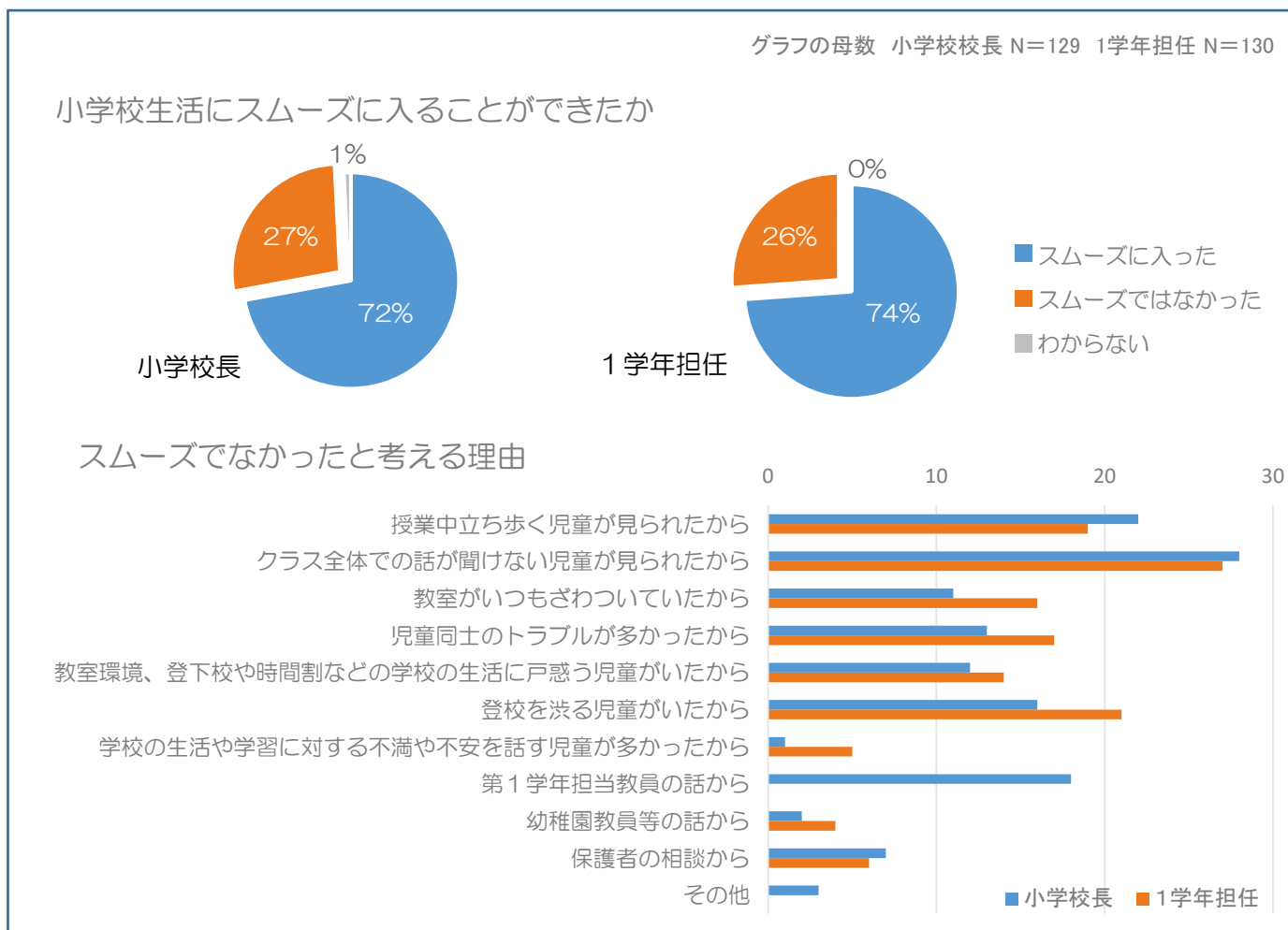
一方、不満として現れた中には、「勉強と遊び」では、「勉強が多い」「なぜ勉強をするのか分からない」「休み時間が短い」などが挙げられ、「学校生活」では、学校で決められた約束ごとに対するものが多く挙げられている。人間関係では、「友達ができない」「話を聞いてもらえない」ことが挙げられている。

これらのことから、勉強や約束ごとに対して、安心して向き合ったり、自分の課題として捉えたりできるようにすることが大切である。また、人間関係に関しては、一人一人の様子を十分に観察するとともに、学級の活動の中でたくさんの友達と触れ合ったり力を合わせたりする工夫を取り入れることが大切である。

児童自身が、小学校生活に満足感をもつことは、学習への姿勢にもつながる。就学前教育施設と小学校の教職員が連携することが必要である。

2 平成30年度幼児期の教育と小学校教育接続期実態調査結果より

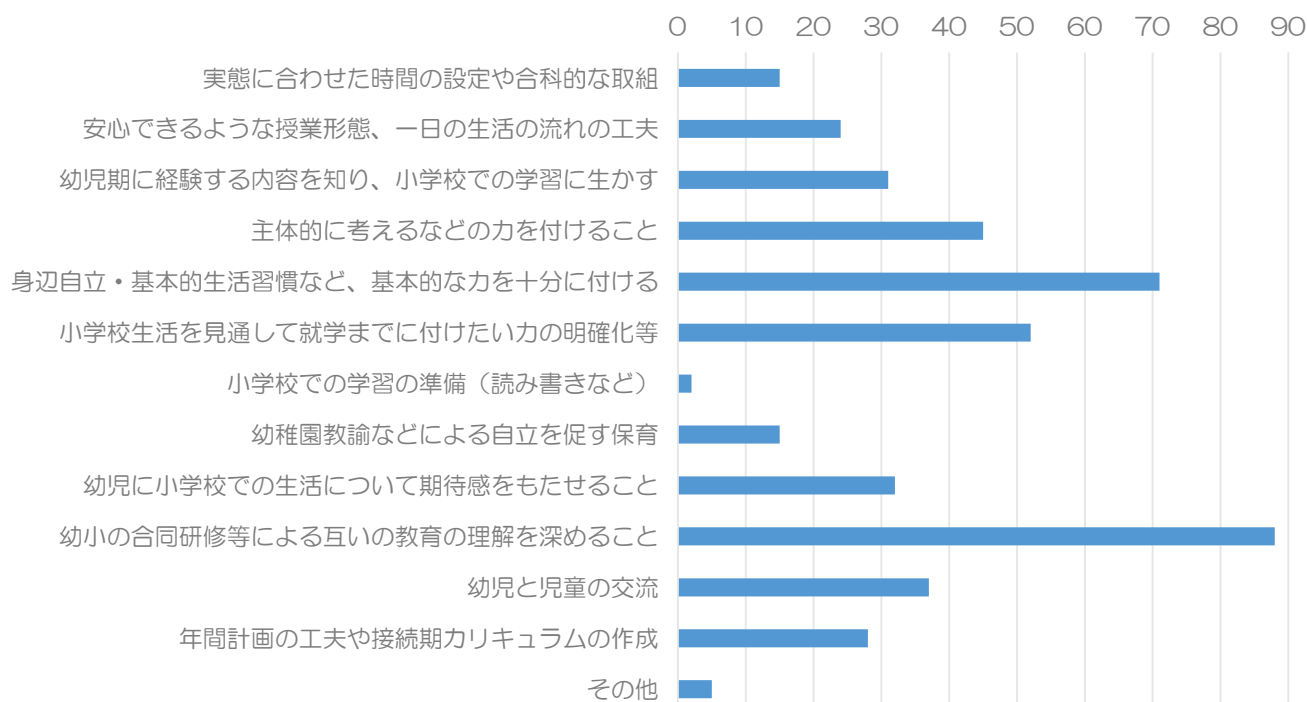
調査結果を見ると、小学校では校長の27%、1学年担任の26%が小学校生活のスタートがスムーズでなかったと回答している。その理由として、「クラス全体で話が聞けない」「授業中立ち歩く」という回答が多かった。話を集中して聞いたり、椅子に座って話を聞いたりする経験をあまりしていないことが原因と考えられ、小学校のスタート時に



少しずつこうした「聞く姿勢」を身に付けられるような指導計画を作成することが必要である。また、就学前の段階でも、話を聞く姿勢を育てる環境づくりに配慮することが必要である。「登校を渋る」という回答も多く、不登校児童が増加している現状を踏まえ、この段階での丁寧な対応の重要性がうかがえる。就学前段階の子どもの姿と入学後の姿をもとに、保育者と教員が保護者と共に話し合う機会をつくる必要がある。また、懇談会からケース会議へと、子どもの状況に応じた話合いの形態や外部専門機関との連携なども視野に入れていく必要がある。

グラフの母数 園・所長 N=136

小学校生活にスムーズに入るために必要な取組（園・所長）



一方、園・所長による小学校生活にスムーズに入るために必要だと思う取組として、「身辺自立・基本的生活習慣など、基本的な力を十分に付ける」「幼小の合同研修等による互いの教育の理解を深めること」という回答が多かった。子どもに付けておきたい力として、小学校生活を始めるに当たり、挨拶、排泄、衣服の着脱等の基本的な身辺自立から教員に頼ることなく学校生活に必要なことを自分でやり遂げることまで、「身辺自立・基本的生活習慣の定着」が求められるため、就学前教育段階でこうしたことを身に付けられるようにするとともに、個々の子どもの状況をきちんと共有する機会をつくるのが大切である。さらに、就学前教育施設の保育者と小学校の教員間で、子どもの課題の共有や入学までにできるようになるべき事項の確認にとどまらず、互いの教育方法の理解、子どもの育ちの共有も必要である。

Ⅲ スタートカリキュラムをデザインする ～「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」から～

平成30年3月に「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著）が出されました。

その中から、特に本県で共有し、推進したい内容を取り上げ、まとめています。

スタートカリキュラムを構成する活動の種類

一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした活動（安心をつくる時間）

合科的・関連的な指導などによる生活科を中心とした学習活動

教科等を中心とした学習活動

- ・安心して小学校生活を楽しむ
- ・自らの力を発揮して主体的に学習する

1 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた スタートカリキュラム

入学当初の児童がもてる力を十分に発揮するためには、幼児期にどのように育ってきたのか、何をどのように学んできたのか、どのような経験をしてきたのかを知り、それをうまく活用した教育を進めることが大切である。

小学校教育の中で、幼児期の学びをゼロにするのではなく、幼児期の学びを足がかりに円滑なスタートを切れる教育課程を準備することが必要とされている。

幼児期には、小学校以降の学びを見通して、学習規律や学ぶ意欲を身に付けられる準備を整えておきたい。

以下に、「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム（平成30年3月文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著）」による幼小接続の考え方とスタートカリキュラムのデザインについて示す。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえたスタートカリキュラム

幼稚園教育の基本に基づいて、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」であり、(1)健康な心と体、(2)自立心、(3)協同性、(4)道徳性・規範意識の芽生え、(5)社会生活との関わり、(6)思考力の芽生え、(7)自然との関わり・生命尊重、(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、(9)言葉による伝え合い、(10)豊かな感性と表現の10の項目で示されている。これらの姿は、到達すべき目標ではなく、自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

幼児期の教育と小学校教育を接続するに当たっては、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達の段階を踏まえた教育活動を充実させることが重要である。そのため、小学校では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに幼児期の実態を理解するとともに、園の教職員と子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが求められる。

スタートカリキュラムの編成・実施に当たっては、「生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」が求められている。これは、個別の教科や1時間ごとの学習活動だけではなく、小学校入学当初の児童の学校生活全体を対象とし、その教育課程を各学校や児童の実態に応じてデザインすることを意味している。このことは、「小学校学習指導要領 第1章 総則」（平成29年告示）「第1小学校教育の基本と教育課程の役割」に示されている。

2 スタートカリキュラムをデザインする基本的な考え方

スタートカリキュラムをデザインする際の基本的な考え方としては、次の4つが考えられる。こうした考え方について学校全体で共通理解を図った上で、スタートカリキュラムをデザインすることが求められる。

基本的な考え方	
■一人一人の児童の成長の姿からデザインしよう	入学時の児童の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を考慮したきめ細かい指導が求められる。そのため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえるなどして、幼児の発達や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインすることが重要である。
■児童の発達の特徴を踏まえて、時間割や学習活動を工夫しよう	入学当初の児童の発達の特徴やこの時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりするような工夫が必要である。また、児童の意欲の高まりを大切にして、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定することなども考えられる。
■生活科を中心に総合的・関連的な指導の充実を図ろう	自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特徴を踏まえ、生活科を中心とした総合的・関連的な指導の充実を図ることが重要である。このような指導により、児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進めていくことが可能となる。
■安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整えよう	児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えることが重要である。児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を見直す必要がある。

3 スタートカリキュラムをデザインする

幼児期における遊びを通した総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるようにするためには、小学校入学当初の学校における教育活動全体を対象として、カリキュラムをデザインしていくことが欠かせない。

スタートカリキュラムをデザインする手順

遊びを通しての総合的な学び（幼児期）

より自覚的な学び（児童期）

(1) 幼児の発達や学びを理解する

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる
- ・幼児の発達や学びの姿を把握する

(2) 期待する児童の姿を共有する

- ・スタートカリキュラムで期待する児童の姿を明らかにする
- ・実施期間を検討する

(3) 各学校のスタートカリキュラムをデザインする

①

単元の構成と配列

期待する児童の姿に適合した単元を構成し、配列する

スタートカリキュラムとして大切なこと

幼児期の教育とのつながりや児童の発達の特性を踏まえ、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う

すべての単元を配列し、俯瞰することができる単元配列表を作成する

②

週の計画と時間配分

単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する

スタートカリキュラムとして大切なこと

児童の発達の特性や学びの特性を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う

実践に向けて具体化するために週案を作成する

スタートカリキュラムの作成に当たっては、平成29年度「育ち合い、学び合い つなげよう未来へー幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業モデル集一」（奈良県就学前教育センター）も参照してください。

単元配列表の作成

「小学校学習指導要領解説 生活編」（平成29年）には、「生活科と他教科等において学んだことがどのように関連していくのかを意識し、児童の思いや願いを生かした学習活動を展開するために、すべての単元を配列し、それを俯瞰することができる単元配列表の作成が効果的である。」と示されている。学習指導要領で各教科等の目標や内容の確認の上、実施時期や指導方法を調整し、単元配列表を作成することが重要である。

単元配列表を作成しておくことで、授業の中で発せられる児童の発言を受け止め、次の活動につないでいくことなどが期待できる。（単元配列表（例）は「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著 参考）

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	先生に 名前カード を渡したい	よろしくね	みつけたよ		
算数	なかまづくり りとかず	見つけたことを家 の人に伝えたい			
生活	がっこうだいすき みんななかよし				
音楽	みんなであうたおう	園・所で歌っ た歌をみんな で歌いたい		園・所でして いた砂場遊び を教えたい	
図画工作					すなやつちと あそぼう
体育	校庭の遊具で 遊びたい		ゆうぐあそび		
道徳	げんきに あいさつ	見守り隊の人 に挨拶したよ		園・所でも配 達のお仕事を していたよ	
特別活動	学校の給食は、 どのように準備 をするのかな	たのしい きゅうしょく		おしごと たのしいな	

児童の言葉や思いを基に単元を構想、配列することで、児童が安心して自己を発揮し、主体的に取り組む学習をつくり出すことができる。このような学習を通して、積極的に学習に参加する態度の基礎を養うことが重要である。

スタートカリキュラムの週案（例）

接続期の幼児は、夢中になって遊ぶ一方で、共通の目的の実現に向けて協力してやろうとする意欲が出てくる。園・所の生活の一日の流れの中で、活動の区切りをつくり、気持ちを切り替え、自分の身の回りのことやしなければならないことを自覚して行うことを大切にしている。

小学校においては、幼児期の生活の仕方を理解した上で、少しずつ小学校生活に慣れるようにする工夫が必要である。例えば、幼児期の生活に近い過ごし方や活動の工夫をした「安心をつくる時間」を確保することなどが考えられる。

下表は、「平成29年度幼児教育の推進体制構築事業『育ち合い、学び合い つなげよう未来へ』—幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続モデル集—」の実践を参考にした、スタートカリキュラム週案の例である。

	第1日	第2日	第3日
朝	ほっとできる場所・時間 環境の工夫：こうさくコーナー 活動の工夫：手遊び、読み聞かせ、簡単なゲーム等		
1	入学式 持ち物の収納や一日の流れを絵や図で示すなどし、見通しをもち、安心して過ごすことにつなげる。	学級活動 ・朝・帰りの用意の仕方 ・トイレの使い方 ・並び方	学級活動 ・チャイムの合図 国語 「よろしくね」 学級活動 「たのしい給食」
2			
3	学級指導 ・担任の名前 ・教室の場所 ・自分の席	分団会 ・登下校の仕方 約束ごとの導入は、今までの経験を生かす。 「こうしましょう」 ↓ 「どうすればいいかな」	図工 「すきなものなあに」
4			国語・算数 「はじめてのなまえ」 「かぞえてみよう」

児童の実態に合わせて、10～15分の短い時間で時間割を構成する。

IV 幼児期の教育と小学校教育の接続の取組

ここでは、本年度モデル地域として取り組んだ大和高田市及び生駒市の実践を基に、幼児期から小学校入学後への教育をつなぐための取組のポイントをまとめています。

幼児期の教育と小学校教育の接続イメージ



1 幼児期の教育と小学校教育の接続を見通した実践のポイント

小学校教育のスタートは、ゼロからではなく、幼児期の学びの上にある。幼児期の学びを活用しながら小学校のスタート時の教育を組み立てることで、児童は、これまでの自分自身の学びを自覚し、それを発揮したり、新たな学びに意欲を示したりするようになる。

幼児期の学びには、小学校教育のような学習内容の明記はないため、幼児教育の中で育む資質・能力を共通理解しておく必要がある。

以下の点に留意して、接続期の取組を考えたい。

(1) 「交流」から「学びの接続」へ（交流活動の在り方）

子どもが、入学前に小学校の環境、教職員や学習に触れる機会をつくるなどして、交流活動を進めている。

交流活動を進める際には、単なる行事に終わらないように以下の点に留意する。

- ・子どもに交流活動を通してどのような資質・能力を育みたいのか
 - ・上記の資質・能力を育むために適切な内容や方法か
- これからの教育に合わせ、柔軟に行うことが求められる。

(2) 「知る」から「つくる」へ（教員研修の在り方）

幼児期と小学校の教育を互いが知り合ったり、子どもの様子を見たりすることは、接続期の教育を考える上で大切なことである。

互いに知ったことを基に、それぞれの教育活動をさらによいものにしていく姿勢が必要である。

子どもたちがこれまでにどのような経験をしてきたのか、力を発揮しやすい場面設定はどのようなものなのかなどを共有し、生かしていくことが大切である。

(3) 「指導の工夫」から「接続期カリキュラム」へ (教育課程の接続)

(1)で見直した交流活動を教育課程に位置付け、全教職員で共有することが教育課程の接続につながる。

また、(2)で実施する具体的な指導をまとめることが「接続期カリキュラム」の作成へとつながる。

そして、子どもの実態と照らし合わせ、その都度改善を図りながら実施することが求められる。

(4) 「発信」から「連携」へ（保護者との共有）

子どもの小学校への入学は、保護者にとっても大きな変化となる。バス登園や自転車・車で送迎から徒歩通学になったり、弁当から給食になったり、下校後の過ごし方が変わったりするなど、様々考えられる。

入学説明会等で発信するだけでなく、校・園・所が連携するとともに保護者とも連携し、小学校生活を見据えた子どもの育ちを共に支えられる工夫が必要である。

見たい 知りたい 学び合い

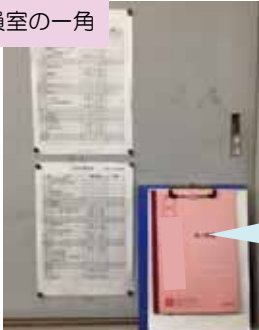
大和高田市立陵西小学校

取組の目的、意図

幼児・児童の交流となると、限られた学年だけになっている。また、幼児が培ってきた力や園の教員の声かけや支援、環境構成など、普段の園生活について知りたいという意見が教員から出た。

そこで、全ての教員が見学の機会をもち、園や学校での学びを互いに知り、それぞれの保育・学習内容に生かすことを考えた。

職員室の一角



幼稚園の予定表

幼小接続ノート

1. 普段の様子を見に行く

- ・教員が、具体的かつ端的な言葉がけをしていた。幼児が自ら楽しく活動していた！
- ・小学校でも、もう一度指示の出方を見直していきたい！

知りたい！

見たい！

幼稚園の予定を見て、空き時間に行ってみよう！幼稚園の壁面ってどんなのかな。

～小学校教員の感想より～

Point
気軽に行ける



子どもの心をキャッチする言葉がけを参考にしよう！

2. 子どもたちの関心と授業内容が結びついた学び合い

～上手に跳べるヒミツを知ろう～

助走や踏み切り等、見たい・知りたいところを、見ることができたよ。

3年生の姿を見て、こうなりたいと自分の新たな目標をもつことができてよかった。

Point

幼稚園では…

一緒にできて楽しかった。幼稚園の友だちに、どうやって伝えたら分かりやすいかを考えたよ。コツなどを意識して跳ぶことができ、いつもよりうまくできたよ。

小学校では…

なるほど！児童へのメリットもあるんだな。交流に関しても、授業内容と幼児の“知りたい”という実態を合わせて、コンパクトに交流できた！

学び合い！

Point

★成功のカギは…

コンパクトに！無理なく！

- ・予め、互いの保育・授業の予定を交換しておく。そうすることで、新たに時間を設定しなくても、互いのニーズと、設定してある授業内容を有効に活用し、スムーズに交流することができる。
- ・実際に子どもたちの姿を見ることで、保育内容・授業内容を知り、それぞれに学び合える。

成果

- 園・学校での生活の様々な場面を見学し、幼児・児童ができることやそれぞれの教員が育てたい姿を知ることができた。
- 双方のカリキュラムを知ること、園での経験がどのように小学校での学びに繋がっていくかを知ることができた。
- 子どもたちは、互いを高め合いながら、主体的に活動することができた。

【来年度に向けて】

本年度は見学が主であったが、予定表と学習内容の接点を見つけ、学び合える時間を増やしていきたい。



小学校って楽しいよ ～5年生との交流から～

私たちも実施しています

檀原市立畝傍東幼稚園

就学前教育アドバイザーがインタビューしました！

(活動について)

幼小で積み重ねてきている交流の記録を生かし、毎年、子どもの実態に応じた交流を行っています。幼稚園は「5年生と一緒に掃除をしよう」、小学校は「掃除の仕方を園児に教えよう」とテーマを設定し、幼小の子どもたちが互いに達成感や思いやりの気持ちを感じられるように取り組みました。

幼稚園の園児は、5年生にほめてもらうことで意欲的に掃除ができ、掃除のコツを他の園児に知らせたり、家庭でも進んで掃除を行ったりする姿につながりました。

また、その後の交流で5年生から「困ったことがあれば何でも言ってくださいね」と優しく声をかけてもらうことで、小学校に期待をもつことにつながりました。

(取組を通して感じること)

幼稚園・小学校共に長年の交流をノートに記録し、反省・評価を繰り返しており、その取組をそれぞれのカリキュラムに位置付けています。

5年生と一緒に掃除をし、きれいになった喜びを共有することで、掃除の意義や心地よさを感じることができました。また、5年生の優しさに触れ、小学校への興味や憧れをもつきっかけとなりました。



かっこいい1年生になるために ～学んだことを教える喜びへ～

私たちも実施しています

大和高田市立浮孔西小学校

就学前教育アドバイザーがインタビューしました！

(活動について)

1年生が学習で学んだ「ちくちくことば」と「ぽかぽかことば」、これを来春入学してくる友達に教えようという声が上がりました。「かっこいい1年生」になるために、友達と仲良くできる、困ったことをうまく伝えられる方法を、寸劇の中にクイズを盛り込んで伝えることになりました。

人に気持ちを伝えると周りの人も優しくなり、学校生活が楽しくなります。

(取組を通して感じること)

クイズ形式の交流は、幼児・児童が共に参加でき、それぞれの学びにつながりました。また、学んだことを生かす機会をもつことは、子どもの自信につながります。その後の生活態度にもあらわれていました。

幼稚園の子どもたちが小学校生活のスタートに自信がもてると嬉しいです。

3人で遊んでいます。隣で見ている子がいます。どのように伝えればいいですか。

- ①一緒に遊ぶ？
- ②入れてあげへん。

正解は①。ぽかぽか言葉です。



(2) 教員の研修 知るからつくるへ

市内研修の工夫

教員がつながれば、子どももつながる

大和高田市

取組

市内で行う幼小接続研修の対象者を広げた。学校教育課が中心となり保育課と連携したり、私立園に研修の意図や大切さを伝えたりし、市内の就学前教員と小学校教員が共に学び合う研修とした。(就学前指導主事、小学校指導主事も参加)

なぜなら・・・

取組の目的、意図

市内には公立私立合わせて23の就学前教育施設があり、そこから市内8小学校へ入学する。そこで、それぞれの園所における子どもたちの生活や活動、学びを理解し合い、就学前と小学校がつながるためにできることを考えた。



研修内容の工夫！



Point 1

研修は講演だけでなく、校区やブロック別でのグループワークを取り入れました。

Point 2

園生活の一場面における学びの読み取り。5領域、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から小学校の教科等へとつなげました。

Point 3

「遊びの中の学びが、分かりづらい」という小学校教員の声を受けて、研修内容を考えました。

★成功のカギは・・・

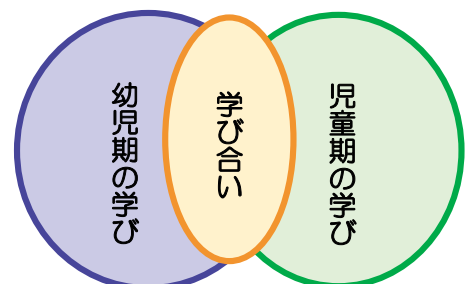
研修会ごとにアンケートを取り、就学前・小学校教員の“したいこと”“困り感”などを把握し、次回の研修内容に生かしています。



【遊びから学びを読み取る】

成果

- 本市では、あまり交流がなかった小学校と公立保育所や私立園の教員が交流をもてる研修の場となった。
- 小学校教員・・・ 遊びの中には教科書の無い学びがあることを知ることができた。
- 就学前教員・・・ 幼児期に培った力が、小学校での学びにつながっていることを研修で実感できた。



「しつもんシート」を活用して

生駒市立壱分小学校

取組の目的、意図

入学して間もない頃は、新しく学ぶ生活上のルールや学習内容が多くあり、子どもたちにとっては高いハードルである。そのため、子どもたちがいち早くルールを理解し、安心し、自信をもって学ぶことができるよう以下の取組を行った。

しつもんシート

- ☆1 お残しがない 楽しく給食が食べられるような取組を教えてください。
- ☆2 自由時間に子どもたちは室内でどのような遊びをしていますか。また、室内遊びをするうえでルールがあれば教えてください。
- ☆3 てつぼう・うんていを使った遊びや、それらが上達する取組があれば教えてください。
- ☆4 運動を始める前にできるような体づくりの活動をしていましたら教えてください。
- ☆5 運動する時の体操着について、冬場はどのようにしていますか。
- ☆6 春から夏に幼稚園や保育園で栽培していた植物は何ですか。
- ☆7 子どもたちは植物のお世話をしていましたか。(個人鉢でしたか。)
- ☆8 読み聞かせについて教えてください。
※一日の(いつ・何回・何冊)・ルール・教員が気をつけていることなど
- ☆9 ひらがなのよみかきについて園側がしている活動があれば教えてください
※具体物の有無や活動内容(手遊び・歌など)。
- ☆10 1~10までの数についてと前・後ろ・右・左などを意識させるような取組があれば、教えてください
※具体物(絵本など)の有無や活動内容(手遊び・歌など)。
- ☆11 教科書や歌集の中に子どもたちが親しんでいた歌があれば教えてください。
- ☆12 鍵盤ハーモニカをつかった取組があれば教えてください。
- ☆13 はさみはどのようなルールで使わせていましたか。
- ☆14 おすすめの活動があれば教えてください。(絵本・手遊び歌など)

以上です。お疲れ様でした。



POINT!

園の先生に聞き取り

幼稚園・保育園での子どもたちの様子や保育の様子を知るために、「しつもんシート」を作成した。幼・保の教職員に聞き取りを行うことで、小学校との教え方の違いや、共通点などを知ることができた。

魔法の言葉「園ではどうだったのかな？」

「しつもんシート」を基に、園での指導や支援の方法を学校生活に取り入れた。☆11では、1年生の音楽教材には、園で親しんでいた歌がたくさんあることを再確認できた。そこで、授業の導入で、「保育園・幼稚園ではどんな歌を習ったの？」と子どもたちに尋ねた。子どもたちは、うれしそうに、園で学んできたことを自分からたくさん発表することができた。

また、他園から来た友達に遊びと歌などを教え合いながら、興味をもって関わることもできた。「音楽って楽しいな！幼稚園で習った曲いっぱい出た！」と笑顔で話す子どもたちの姿が見られた。

POINT!

一目で分かる掲示物の作成

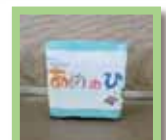
- ①給食当番表にあるイラストと同じイラストが廊下にも貼ってあることで、自ら、給食を運ぶ列に並ぶことができるようになった。
- ②雨の日に使ってもよいものが一目で分かるよう、ケースに「あめのひ」というカードを貼った。雨が降った日は、担任に尋ねることなく、迷わずトランプを手取るようになり、朝から友達をトランプに誘う子どもの様子も多く見られた。

掲示物による視覚支援

②



①





地域育成の架け橋として ～半日「ほいくたいけん」の実施～

私たちも実施しています

御所市葛上中学校区人権教育研究会

就学前教育アドバイザーがインタビューしました！

(活動について)

毎年葛上中学校区の小・中学校全教員を対象として、「ほいくたいけん」を実施しています。保育所で半日、保育に参加させていただきます。

この活動は約20年前、保・小・中の15年間を見通して、切れ目のない一貫した教育を行うための「架け橋フォーラム」の一環として始まりました。

今年の保育体験にも多くの先生方が参加してくれました。私も純粋に子どもたちとプール遊びを楽しみました。

保育所の先生方の、指導や配慮の細やかさや集団の力を利用した指導の工夫を実感しました。その中で、全力で力を発揮する子どもの姿に感心しました。

(取組を通して感じること)

「こういう子どもを育てたい」という思いを共有することが大切だと感じます。

その姿を目指し、互いにパスを送るように「ここまでできたよ、ここからお願い。」と引き継いでいきたいと思っています。

同じ熱で教育を語り合えることが大切なことだと思います。



公立小学校では、幼稚園、保育所の子どもとの交流活動を以前から行ってきました。交流活動を通して、小学生は学習内容を発表したり幼児に思いやりをもって触れ合ったりすることで、自分自身の成長を実感し、幼児は、小学生にあこがれたり、小学校生活を見通し、入学への不安を解消したり期待を膨らませたりします。

しかし、そのような活動を何度も実施することは容易ではありません。また、ただ単に交流をすればよいというものでもありません。

教員同士の交流や研修機会は、子ども同士の交流活動を更に学びの多いものにし、日々の教育活動の充実につながります。

保幼小の教職員の合同研修は、市町村や小（又は中）学校単位で多く実施されています。研修の実施が、子どもの実態を共有したり、「見えにくい」と言われる就学前の「遊びを通しての学び」を理解したりすることにつながっています。

「幼児期にこのような方法で学んできた子どもたちが、小学校で力を発揮できる授業の形態や展開の仕方は？」「小学校生活のスタートで見せる子どもたちのつまずきの原因は？」「接続期をたくましく乗り越えるために必要な本当の力とは？」など、保幼小の教職員が共に考え、教育課程に表していくことが、スタートカリキュラムの作成につながります。

4月、1年生に「これまでどんなことができるようになったの？みんなすごい力を手に入れてきたんだね！それを使えばもっといろいろなことができるようになるよ！」と呼びかけるような教育を共につくっていくことが大切です。

(3) 指導の工夫からカリキュラムへ

小学校につながるからだづくり

保育園・幼稚園にある互いの環境を生かして

生駒市立壺分幼稚園

保・幼・小の教職員で子どもたちの実態を出し合う中や、保幼小交流で校庭で遊ぶ姿から、

- ・からだをしっかりと支えられない
- ・腕の力が弱い
- ・友達とよくぶつかる

など、共通する実態があがってきた。

そこで…



幼保で無理なく取り組める、小学校につながる「からだづくり」を考えてみよう！

1年生の授業の様子を知りたいなあ…



① 1年生のことを教えて！（からだづくりの視点から）

1年生の入学当初の様子を教えて！

体育の授業ではどんなことをするの？

- うんてい、鉄棒、のぼり棒に取り組むと、個人差が大きい。
- 椅子に座るときの姿勢の保持が難しい。
- 「きをつけ」をする時、机にもたれたり、手をのびたりする。
- 階段を一段ずつ足を揃えて下りる子が多い。

教科	体育
4月	ならびっこ ゆうぐであそぼう はしりっこ（50m走記録）
5月	はしりっこ ゆうぐであそぼう てっぼうあそび どうぶつになるう へいきんたい マットであそぼう
6月	マットであそぼう ゆうぐであそぼう てっぼうあそび ボールあそび みずあそび（プール）

③ 「からだづくり」を意識した保幼の交流

☆幼稚園にはない、保育園の遊具で遊ぼう！



上まで登りたい！



保育園の友達はケンケン跳び上手だね

挑戦意欲の高まりにつながり…



逆上がり頑張る！



私もできるようにになりたい！

② 小学校につながる「からだづくり」を課題とした交流のもち方を、保育園と幼稚園で話し合う。

POINT

のぼり棒があると腕の力が強くなるかなあ？

広い園庭で思いっきりボール遊びがしたいな！

幼稚園

保育園

○保育園・幼稚園にある互いの環境を生かし、経験の幅を広げられるような小学校につながる「からだづくり」を意識した交流を行う。

☆幼稚園の広い園庭で思いっきり遊ぼう！（ドッジボール大会をしよう）



よろしくお願いします！



絶対勝つぞ



混合チームでも戦ったよ！



また一緒に遊ぼうね







☆幼保交流を通し、1年生になってからも挑戦する意欲をもち、楽しんでからだを動かすことのできる子どもたちに育ててほしい。

いいこと いっぱい 指導案

大和高田市立陵西小学校

取組の目的、意図

- 交流活動で、互いの教員がそれぞれの子どもたちの育ちや評価を理解し合うことで、子どもたちのより主体的な活動につながると考え、統一指導案を作成した。

	幼稚園		1年生	
本時のねらい・目標	<ul style="list-style-type: none"> 小学生と一緒にリレーを楽しむ。 自分の意見をグループの中で話そうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の友達にわかるように工夫して説明し、一緒にリレーを楽しみ、触れ合い、交流をしようとする。 	
時間	活動	教師の働きかけ ☆幼・◇小	育ち・評価 ☆幼・◇小	準備物
展開	<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動の内容を聞く。 からだほぐしの運動をする。（「猛獣狩りに行こうよ」） リレーのチームに分かれて並ぶ。 1回目のリレーをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆理解しているか見る。 ◇グループに入りにくい子どもに対して支援する。 ☆人数の多さに慣れるよう、一緒に動いたり手を繋いだりする。 ◇園児が迷わずに並ぶことができるように促す。 ☆分かりにくかったら小学生や先生を頼って聞く機会をもつようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇進んで声をかけ合い、グループをつくる。 ☆みんなで活動する雰囲気に慣れ、自ら動いてグループに入ろうとする。 ◇スムーズに並ぶことができるように、説明したり協力したりしている。 ☆聞きたいことがあれば、近くにいる小学生や先生に尋ね、楽しんで活動することができる。 ◇友達の頑張りをを見つけることができる。 	リングバトン コーン アンカーヒブス  グループ分けの絵
	 走り順番を確かめよう！	 手作り整列表		 幼稚園のみんなも、分からないことがあったら聞いてね。
振り返り	幼稚園		小学校	
	<ul style="list-style-type: none"> 走る順番に確信がもてない幼稚園の子どもに1年生が自ら声を掛け、背中をそっと押すような関わりが見られた。 教員の助けがなくても、幼児自ら小学生に関わりようとする姿が見られてよかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 園児が普段行っている並び方や声かけの仕方を事前に把握していなかったため、活動を始める時に戸惑っている様子が見られた。 	

Point
隣りに欄を設けることで園児、児童双方への働きかけ方が見やすい。

Point
1枚で1時間の流れが分かるようにする。

Point
互いの育ちや評価を知っておくことで、交流時の見取りや援助等に役立つ。

Point
振り返り欄を設けることで、次回交流や来年度につなぐことができる。

★成功のカギは…
1枚にすることで、幼稚園教員、小学校教員と一緒に立案でき、同じ指導案で交流に臨める。
事前打合せ、事後打合せ、記録として活用できる。

成果
双方の教育内容や育ちを知っておくことにより、交流時の声かけや次の動きへのアプローチがしやすくなった。また、活動するとき互いに気付かなかった配慮点を知ることができ、それぞれの教育内容に生かせることが分かった。

地域の中でのつながりが、安心感へ

社会福祉法人晋栄福祉会
いちぶちどり保育園

地域主催の雪まつりに共に参加し、遊びを通して関わりをもったことがきっかけとなり、私立保育園と公立幼稚園がつながった。平成 29 年度よりモデル地域に指定され、保幼小接続事業の取組が本格的に行われることになった。

POINT !

☆交流を行うまでの保育園としての課題☆

- 登園時間に差があること
- いろいろな小学校に就学すること
- 交流活動に応じて給食時間等の調整が必要なこと

☆園として行ったこと☆

- ◎参観前、送迎時などに保護者に交流時間までに登園することを伝え、協力を求めた。
- ◎小学校との交流を通して、小学校の場に慣れるなど、交流の意義を保護者に啓発した。
- ◎無理のないスケジュールで交流計画を立てた。
- ◎それぞれの施設の特徴を生かした交流の内容を考えた。

☆成果☆

- ・交流を深めることで子ども同士が顔見知りとなり**不安なく、自信をもって就学できる**ようになった。
- ・小学校を身近に感じ、**期待感や安心感**をもてた。
- ・**保護者**にとっても小学校との交流活動が就学に対しての**不安解消**につながった。

保育園での交流



ジャングラミング
楽しい!



ほっぺた
やわらかいな



あかちゃんて
ちいさくて
かわいい!



交流を深めること

- ・一緒に遊ぶ姿が見られ**主体的**に遊びが広がる様子が見られた。
- ・お互い刺激を受け合い**意欲的**に取り組む姿が見られるようになった。

結果

- ・同地域の友達と関わり、安心感をもちながら就学への意欲を高められた。
- ・小学校での学びに繋がる共通した遊びを一緒に楽しむことができた。
- ・保幼小交流に刺激を受け、近隣の保育園とも交流をもつきっかけとなった。

同じき分地域の保育園の
子どもたちとも交流
「また、遊ぼうね!」



私立保育園+公立幼稚園

地域の小学校との交流

地域の協力を得て、つながっていくことで保護者、子どもたちの不安が解消された。

(4) 保護者への発信から連携へ

保護者と地域、幼稚園と小学校をつなぐ仕組み

8時だよ！小学生と登校園！

大和高田市立陵西幼稚園

取組①

1月

- ・学級懇談会で保護者に8時登校園を考えていることを話す。

入学への不安な気持ちを
安心に導きたい。

○なぜするのか？

保護者と一緒に歩く道中で
危険箇所や安全について
考える機会にしたい。

Point!
入学をどう迎えるか
を意識した準備期間

- ・先輩保護者の話を聞く

笑顔で子どもを送り出すコツ
を聞き、保護者も家での過ごし方
を考えるきっかけにしよう。

取組の目的、意図



小学校に入ったら授業中は先生がいてくださるので安心なんですけど、登校して子ども同士で過ごす朝の時間、何をしたらいいのかわからない時間が心配なんです。朝の不安を一日引きずることも多いので…

この相談を受けて、小学校生活の実体験が必要であることや、実際の生活を知ることによって不安が少しでも解消されればと願い、取り組んだ。

3月

取組②

☆各家庭の部団登校は、何時にどこに集合しているか 地域の人に聞いて知る。

☆小学生が登校する部団の後ろを親子で歩き、小学校近くまで歩いた後、幼稚園に登園する。

※登校時間帯の交通量を知る。

☆朝の準備を済ませた幼児から、1年生の教室へ行って様子を見たり、一緒に読書の時間を体験したりして過ごす。



【1年生の教室で一緒に朝休み！】

★成功のカギは…

『保護者の意識改革！』と『安心』

*保護者が子どもを励ますだけでなく、「自分には何ができるのか」と考え、実践していた。心にゆとりをもって、親子で小学校生活をスタートさせる基盤づくりにつながった。

*保護者が抱えている不安に寄り添った取組をしたことが、親子にとっての安心につながった。

成果

◎全体の成果として

1月に計画を話し、3月に実施するまでの期間に保護者は入学への気持ちを高め、担任はその気持ちに寄り添って一緒に歩むことができた。

◎保護者の成果として

登校時間帯に気を付けることを一緒に歩きながら伝えることができて、よかった。

朝の時間を体験させてもらって、「知る」ことが親子の安心につながった。

地域の人に話を聞かせてもらって、入学前につながりをもてたことがよかった。

◎子どもの成果として

教室に入ると自発的に見たいところに行き、どのように過ごしているのか、よく見ている姿があった。友達と話しながら和やかな雰囲気を楽しんでいた。



校長先生に質問しよう ～質問いいですか イェーイ～

私たちも実施しています

川西町立川西幼稚園

就学前教育アドバイザーがインタビューしました！

（活動について）

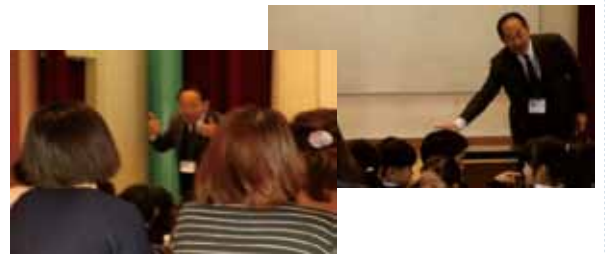
数年前から、3学期の学級懇談会に校長先生をお迎えし、子どもと保護者が校長先生に質問をしています。期待をもって小学校に入学することにつながっています。

今年は、「質問いいですかイェーイ」を合い言葉に、なごやかな雰囲気の中で質問をしました。子どもたちからは、「どうしてランドセルを持って行くのですか」「算数って何ですか」と素朴な疑問が、保護者からは給食・下校・文具など、学校生活に関することが出されました。

校長先生が、「入学式でもこの合い言葉を使うので忘れないでね」とお話し、子どもは小学校への期待に、生き生きとした表情でした。

（取組を通して感じること）

子どもだけでなく、保護者も入学に対し不安を感じています。親子共に小学校を身近に感じ、安心感をもって、入学することを楽しみにする姿につながりました。特に子どもたちにとって、校長先生との合い言葉は、小学校への思いをつなぐものになったと思います。



小学校入学に向けて、子どもたちは新しい生活への期待と不安を抱いています。就学前教育の場では、主体性を大切に、「やってみたい」「知りたい」「できるようになるって楽しい」「もっとみんなで学びたい」という姿勢を育てています。

しかし、入学に向けては、「どんなところかわからないから不安」「給食を時間内に食べられるかな」「人がたくさんだし、大きな男の人がいるからどうしよう」など、大人とは少し違う視点で不安をもっていることもあります。

また、子ども同様、保護者も小学校入学に対して不安を抱いています。保護者の不安が強いと、子どもも強く不安を感じている傾向が、過去のモデル園の取組に見られました。また、接続期の取組を充実させることで、入学後の保護者からの問合せ等が減ったことを実感したという声も聞かれました。子どもに対する接続期の取組とともに、保護者への発信から保護者の協力体制づくりも有効です。

上記のインタビューの取組の他に、小学校にすでに兄や姉が通う先輩保護者に話を伺う座談会を設ける就学前教育施設や、希望する保護者に対して小学校入学前に小学校見学を実施する小学校などもあります。

就学前から小学校へ、この接続期を子どもと共に保護者もうまく乗り越えられるよう取り組むことが望めます。

小学校0年生活動

小学校初任者研修講座
幼稚園等新規採用教員研修講座
公立幼保連携型認定こども園新規採用保育教諭研修講座

受講者

小学校の空き教室を利用して、幼稚園等の5歳児が、小学校生活を体験してみてもいい。チャイム、机と椅子、ロッカーなどの小学校の教室環境の中で、日直や当番活動をしたり、遊んだりし、少しでも小学校生活を体験してみるとよいのではないのでしょうか。

5歳児にとっては、慣れ親しんだ園の友達と保育者と共に小学校で過ごすことで、入学後の小学校生活が、不安から期待に変わるのではないかと思います。

また、小学校の教員が入学してくる子どもたちの様子を見る機会にもなります。幼児期の学びを感じることができ、入学後のスタート期の指導に生かせるのではないのでしょうか。



なかよし大作戦

小学校初任者研修講座
幼稚園等新規採用教員研修講座
公立幼保連携型認定こども園新規採用保育教諭研修講座

受講者

幼小の接続について、子ども同士が仲良くなるだけでなく、幼小の教職員同士も仲良くなり、気軽に話せる環境をつくり、お互いが「つながりたい」という思いをもって取り組むことが大切だと思います。教職員同士が、交流の打合せなど気軽に連絡を取り合ったり、参観などを通して互いの教育・保育を知ったりして、交流する機会を増やしたいものです。

その中で、幼小の学びの違いを理解し、互いに学んだことを保育や教育に生かすことで子どもたちの戸惑いが減り、生き生きと学びに向かえるのではないのでしょうか。

平成30年度幼児教育の推進体制構築事業

【モデル地域、研究協力校・園】

市町村	研究協力校	研究協力園
大和高田市	大和高田市立陵西小学校	大和高田市立陵西幼稚園
生駒市	生駒市立壺分小学校	生駒市立壺分幼稚園 社会福祉法人晋栄福祉会 いちぶちどり保育園

【指導助言】

兵庫教育大学 准教授 鈴木正敏

平成31年3月発行
編集・発行 奈良県就学前教育センター
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1
TEL 0744-33-8902 FAX 0744-33-8909

